

10月14日(金)  
2016年(平成28年)

# ごみ屋敷相談 全国一斉に

## 千歳の法人が初開催

孤立死があった部屋や「ごみ屋敷」を対象にする「特殊清掃」の人材育成などをしている一般社団法人「事件現場特殊清掃センター」(千歳市)は25日午前9時~午後5時、最近増えているとされる「ごみ屋敷」を対象にした全国一斉の電話相談を初めて開催する。同センター(0123・42・0622)や加盟店業のうち約300社がそれぞれ受け付け、相談料は無料。

### 「もの屋敷」も増える

センターは2013年2月に設立。廃棄物が部屋や住宅の敷地からあふれる「ごみ屋敷」の相談は当初、月1件程度だったが、徐々に増えて現在は毎月、最低でも7~8件はあるという。

センターの小根英人事務局長によると、外部から分かる「ごみ屋敷」だけでなく、部屋にモノをため込む「もの屋敷」も目立ってきているといい、「推計だが、ごみ屋敷は全国で10万件ほどがあるのでないか」と話す。

ごみ屋敷は多くが高齢者世帯で、日常の相談者は家族から大半を占めるという。また、体が不自由でごみ出しできない高齢者からの相談もある。小根事務局長は「空き家なので解体したいが、ごみがあふれて手がつけられないケースも多いはずだ」と指摘する。

今回の一斉相談では、相談内容



事件現場特殊清掃センターには、いわゆる「ごみ屋敷」についての相談が増えている=同センター提供

## 加盟300社 25日に電話受け付け

によって地域の適切な業者の紹介などを行う。センターは「ごみの処理で困っている人は気軽に相談してほしい」と呼びかけている。

### 背景に進む高齢化

「ごみ屋敷」や孤立死の背景には、社会の高齢化が進む現実がある。孤立死については全国的な統計はないが、ニッセイ基礎研究所は11年、「自宅で死亡し、発見まで2日以上経過した65歳以上の死亡事例」の推計値を2万682人と発表。また、厚生労働省の国民生活基礎調査によると15年6月時点で65歳以上の単身世帯は624万3000世帯に上っている。

【日下部元美】